

はま り きゅう おん し てい えん 浜離宮恩賜庭園

Hama-rikyū Gardens

江戸の潮風そよぐ浜御殿



スタンプ欄

特別名勝・特別史跡 浜離宮恩賜庭園

- 開園年月日
昭和21(1946)年4月1日
- 開園面積
250,215.72㎡
- 開園時間
午前9時～午後5時
(入園は午後4時30分まで)
※イベント開催期間などで
時間延長が行われる場合もあります。
- 休園日
年末年始(12/29～1/1)
- 無料公開日
みどりの日(5月4日)
都民の日(10月1日)
- 庭園ガイド(無料)
土、日曜日、祝日
(午前11時と午後2時の1日2回)

【お問合せ先】
浜離宮恩賜庭園サービスセンター
☎03-3541-0200
〒104-0046 中央区浜離宮庭園1-1

	個人	団体 (20名以上)	年間パスポート (浜離宮恩賜庭園)	年間パスポート (9庭園共通)
入園料	一般 300円 65歳以上 150円	240円 120円	1,200円 600円	4,000円 2,000円
無料	小学生以下及び都内在住・在学の中学生 身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳 または療育手帳持参の方と付添の方			

集会場 (貸室)	①午前の部 9:00～12:00	②午後の部 13:00～16:00	③1日 9:00～16:00
芳梅亭(25名)	3,600円	3,600円	7,200円

※6ヶ月前の同日午前9時から受け付けます。 ※別途入園料が必要です。



【交通のご案内】

- 《電車》
- 大手門口
都営大江戸線「汐留」「築地市場」ゆりかもめ「汐留」下車徒歩7分
JR山手線・京浜東北線・東京メトロ銀座線・都営浅草線「新橋」下車徒歩12分
- 中の御門口
都営大江戸線・ゆりかもめ「汐留」下車徒歩5分
JR山手線・京浜東北線「浜松町」下車徒歩15分
- 《船》
水辺ライン(両国⇄浜離宮⇄お台場海浜公園)
水上バス(浅草行き(日の出橋経由))
- 《駐車場》
ご来園の観光バス専用
※障害者・車椅子の方の車庫は駐車可

公園へ行こう!
発行:文化財庭園課 TEL.03-3232-3018

検索

お客様サポートセンター(協会事業全般に関するお問い合わせ)
TEL.03-3232-3038 ※8:30～17:30(土・日・祝日、年末年始を除く)
指定管理者 公益財団法人 東京都公園協会
http://www.tokyo-park.or.jp



文化財庭園へご来園の皆様へ

都立庭園は、江戸、明治、大正時代から続く歴史・文化・自然を兼ね備えており、いずれも国や都の文化財に指定されています。震災や戦災、進む都市化の中で残された貴重な存在であり、この貴重な存在がよりよい状態で後世に残るよう、皆様にご理解とご協力をお願いいたします。

【庭園からのお願い】

- ペット(動物)を連れてのご入園、園内の動植物の採集、敷物の利用、酒類の持込みはご遠慮ください。
- 喫煙は園の指定した場所をお願いいたします。
- 写真撮影、写生は建物・添景物保護の為に断りする場所があります。
- 文化財は不定期による保存修理工事を要することがあり、一部ご観賞いただけない部分があります。

都立文化財9庭園

- 浜離宮恩賜庭園
- 旧芝離宮恩賜庭園
- 小石川後楽園
- 六義園
- 旧岩崎邸庭園
- 向島百花園
- 清澄庭園
- 旧古河庭園
- 殿ヶ谷戸庭園

徳川将軍家の庭園

海水を引き入れた潮入の池と、二つの鴨場を伝え、江戸時代には、江戸城の「出城」としての機能を果たしていた徳川将軍家の庭園です。承応3(1654)年、徳川将軍家の鷹狩場に、四代将軍家綱の弟で甲府宰相の松平綱重が、海を埋め立てて甲府浜屋敷と呼ばれる別邸を建てました。その後、綱重の子、綱豊(家宣)が六代将軍になったのを契機に、この屋敷は将軍家の別邸となり、「浜御殿」と呼ばれるようになりました。以来、歴代将軍によって幾度かの造園と改修工事が行われ、十一代将軍家斉の時代にほぼ現在の姿の庭園が完成しました。

明治維新ののちは皇室の離宮となり、名称を「浜離宮」と変えました。関東大震災や戦災によって、御茶屋など数々の建造物や樹木が損傷し、往時の面影はなくなりましたが、昭和20(1945)年11月3日、東京都に下賜され、整備ののちに昭和21(1946)年4月から「浜離宮恩賜庭園」として公開されました。その後、昭和27(1952)年11月22日に「旧浜離宮庭園」(文化財指定名称)として国の特別名勝及び特別史跡に指定されました。

しおいり 潮入の池

海水を引き入れ、潮の干満によって池の趣を変える様式。都内にある江戸の庭園では唯一現存する海水の池です。東京湾の水位の干満に従って水門を開閉し、池の水の出入りを調整しています。池にはボラをはじめ、セイゴ、ハゼ、ウナギなどの海水魚が棲息しています。

水面に鳥も遊ぶ都心のオアシス

年中野鳥が生息し、都心のオアシスの風情があふれています。

ひくちやま 新樋の口山

東京湾に面した水門近くの山。レインボーブリッジやお台場など臨海副都心を一望できます。

将軍お上がり場

将軍が船に乗降する所でした。昭和24(1949)年のキティ台風で階段の一部が崩れて海中に沈みました。

水上バス発着場

「浅草」「両国」「お台場海浜公園」、及び「葛西臨海公園」等への発着場です。隅田川に架かる個性豊かな橋を楽しむこともできます。



松の御茶屋

11代将軍家斉の時代に建てられた茶屋群のひとつ。戦災で焼失しましたが、残された礎石などの遺構を調査し、平成22(2010)年に復元されました。史料に忠実な建築により、往時をしのばせる景色がよみがえりました。



中島の御茶屋

宝永4(1707)年に造られて以来、将軍をはじめ奥方、公家たちがここで庭園の見飽きぬ眺望を堪能した休憩所。現在の建物は、昭和58(1983)年に復元したものです。ここでは抹茶、和菓子セット(有料)をお楽しみいただけます。



中島の御茶屋

つた お伝い橋

潮入の池の岸から小の字島と中島を結ぶ延長118mもある総檜造りの橋で、平成24(2012)年に改修しました。



かもば 鴨場

庚申堂鴨場と新銭座鴨場の二つがあります。築造は、前者が安永7(1778)年、後者が寛政3(1791)年という古いもの。鴨場池には幾筋かの引堀(細い堀)を設け、小覗からの鴨の様子をうかがいながら、ヒエやアワなどのエサとおとりのアヒルで引堀におびき寄せ、機をみて小土手から鷹や網で捕るという猟を行っていました。



小覗



引堀

三百年の松

今から約300年前六代将軍家宣が、庭園を大改修したとき、その偉業をたたえて植えられた松。太い枝が低く張り出し、いまなお堂々たる姿を誇っています。



ボタン園とお花畑

ボタン園では春には色とりどりのボタン、お花畑では、春は「ナノハナ」、秋には「コスモス」が美しく咲き誇ります。



0m 100m

車いす通行可ルート

↑旧芝離宮恩賜庭園・浜松町

→汐留

↓中島の御門橋

↓銀座

→汐留新橋

←築地市場